美波　地方創生だより　vol.33

過疎だけどにぎやかな町。斬新なチャレンジを歓迎し、応援する寛容さにあふれ、様々な人がこぞって集う、活気ある町。
新しい時代の中でも決して埋もれることなく、小さいながらもキラリと光る存在でありたい。
新しいまちづくりの合言葉、「にぎやかそ」にはそんな思いが込められています。
みんなが笑顔で夢を語れる町を目指して取り組む、美波町の地方創生を紹介します。

昭和女子大学がSDGsフィールドワークを実施！

6月25日、美波町は、昭和女子大学（理事長・総長 坂東眞理子、東京都世田谷区）と「SDGs調査研究・教育プロジェクト」に関する協定を締結し、今夏、同大学が国内4地域で実施するSDGsフィールドワークを受け入れることとなりました。

8月1日には美波町コミュニティーホールにて、同大学グローバルビジネス学部 髙木俊雄准教授とゼミの学生（昭和女子大3年生2名、明治大学3年2名）、日和佐や由岐の中学生ら4名が参加し、フィールドワーク開講式を挙行。礒野副町長より今回の試みへの期待とともに歓迎を受けました。

8月1日に行われた開講式の様子。

■「美波町の宝物」を探しに町内各地域へ！

8月1日～ 6日にかけて行われたフィールドワークは、学生たちが地元の中高生一緒に、SDGsの考え方を通じて地域の魅力「宝物」を探し、そこからより暮らしやすく持続可能な地域の形を考えていこうというもの。

開講式の後、「宝物」の候補となるものをピックアップするミーティングが始められましたが、地元子ども達もすぐに打ち解け、若者らしい和気藹々とした話し合いが。翌2日からは町内各地を訪問し、関係者から直接話を聞き取る活動をスタートしました。

全国的にも注目される伊座利地区のまちづくり、由岐地区で始まったワカメ養殖や木岐地区の防災と地域おこしへの取り組み。住民待望の復活を果たし、8月下旬にはケアンズへの派遣も決まっている赤松人形浄瑠璃。そして美波町を支える漁業や林業の現場や、日和佐地区にサテライトオフィスを開設する企業の声。町内のみなさんのご協力により、短期間でたくさんの貴重なお話を聞くことができました。

（写真左上）赤松地区では防災拠点施設や人形浄瑠璃の話を。（写真右上）木岐地区のドミトリー聖ヶ丘。（写真左下）養殖ワカメ「明の春姫」の取り組みや（写真右下）日和佐漁協の保護管理しながらの伊勢エビ漁についても取材。